

■ 2020年度 入試問題分析シート ■

一橋大学

前期日程

科目	数学
----	----

総括	試験時間	120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
	満点(配点)	法 180、経済 260、商 250、社会 130	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年と比較して、計算量は少なくなったものの、1(2), 3のようにやや考えにくい問題も出題された。昨年よりは方針をたてにくい問題が多いが、過去問の中には同様の考え方をを使うものもあり、きちんと対策してきた人は対応できたものと思われる。

〈特記事項・トピックス〉

一橋大学の定番通り、1は整数問題、5は確率であった。他の3問は方程式に関するものが1問、最大・最小問題が2問であったが、昨年に引き続き空間図形の計量は出題されなかった。

〈合格への学習対策〉

一橋大学の数学は、文系としては最も難しいものの一つであり、計算力、発想力および正確な論証を必要とする問題が目立つ。したがって基本事項を理解した上で、相応なレベルの問題演習を繰り返し、問題を解く発想力と結果を正しく導き出す計算力、およびきちんと文章で表現する論述力を養う必要がある。特に、頻出分野の整数、確率、図形問題には十分に力を入れて学習しておくのがよい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述式	A	整数の性質	$10^n (n=1,2,\dots)$ を 2020 で割った余りに関する問題であり、この余りが周期的にくり返すことを見抜けるかがポイントとなる。	やや難
2	記述式	II	三角関数	$\tan \theta$ の加法定理を正しく適用できれば難しくないので、確実に得点してほしい。	やや易
3	記述式	B	ベクトル	3個の点が動く最大・最小問題において、まず2点を固定して考えることができるかが問われる。	やや難
4	記述式	II	定積分	絶対値を含む定積分を正しく計算すれば $F(x)$ は求まる。最小値を求める部分は、相加平均・相乗平均の不等式で処理できる。	やや易
5	記述式	A, B	確率、数列	前半はどのように考えても求められるだろう。後半も問題演習の積み重ねがあれば、 p_n の満たす漸化式が導けるであろう。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。